

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷3-8-12渋谷第一生命ビルディング7階

評価機関名 株式会社プレパレーション

認証評価機関番号 機構 20 — 253
電話番号 03-6427-7451
代表者氏名 岡 知己

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	鈴木可津也	経営	H2201069
	②	井口淳	経営	H2301023
	③	古畑朋子	福祉	H2301054
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			指定番号を入力してください
評価対象事業所名称	世田谷区立芦花小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	157-0063		
	所在地	東京都世田谷区粕谷2-22-1		
	Tel	03-3302-5360		
事業所代表者氏名	山田勝政			
契約日	2024 年 5 月 9 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 9 月 5 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 9 月 19 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 9 月 5 日			
自己評価結果報告日	2024 年 9 月 19 日			
訪問調査日	2024 年 10 月 17 日			
評価合議日	年 月 日		評価合議日を入力してください。	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	施設を現在利用している全世帯の利用者本人・保護者を対象とした利用者調査をおこないました。施設から利用者調査案内を配布し、紙面にておこない回答して本評価機関へ返送形式にしました。職員へのアンケートも紙面にておこない、鍵付きBOXへ提出してもらったのち、本評価機関に郵送にて回収しました。訪問調査当日は、施設内の見学をしたあと、経営層に質問しながら、書類の閲覧をして状況把握に努めました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)子どもの視点に立ち、子どもにとって楽しく安心して過ごせる場となること 2)子どもが自分の気持ち（意向）を表明できるように援助し、子ども自身が遊びや生活に主体的に関わること 3)様々な家庭環境にある子どもたちや、障害のある子どもたちが、互いを尊重し、ともに過ごすインクルーシブな環境を作ること 4)安心して子どもを託せるための保護者への情報提供や保護者と連携した子育て支援 5)世田谷区の地域性や関係機関の状況を反映した世田谷らしい連携・協働
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・子どもが過ごしやすい居場所作りのできる人材 ・子どもの声を聞き、その日の良かったことや困ったこと、その子の想いを聞ける人材 ・子ども達一人一人もしくは子ども同士の関係を継続的に見守り、放課後の主体的な過ごし方をサポートする役割 ・子ども達の、心身の安全確保に努め、環境整備や運営を行う役割 ・来所・退所の管理や間食の提供など、新BOP学童クラブの機能それぞれを分担し、運営を行っていく役割口 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・子ども達一人一人の個性を尊重し、子ども達の主体的な遊びや放課後の生活を見守り、関わっていく使命感 ・それぞれ与えられた役割に努め、運営を行うこと ・チームでの新BOP学童クラブ運営を意識し、主体的に意見を発揮しつつ仲間の意見を聞くことのできる協働の姿勢 ・学校という公的な場所に位置する新BOP学童クラブの職員として倫理観を持ち、職務にあたる姿勢

調査対象

対象施設の登録児童数を調査対象とし、アンケートにて調査をおこなった。76世帯より回答を得た。回答は対象児童もしくは保護者が利用者の様子を推察し、回答を依頼した。

調査方法

アンケート方式
紙面のアンケートを施設より配布、施設内回収BOX及び返信用封筒にて本機関へ返送してもらう方法で実施。

利用者総数

206

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
206	0	206
76	0	76
36.9	0.0	36.9

利用者調査全体のコメント

総合評価は、「大変満足」が69.7%、「満足」は18.4%、「どちらともいえない」が6.6%、「不満」が1.3%、「無回答」が3.9%という結果となり、「大変満足・満足」を合わせて88.1%と高い評価を得ています。自由記述では「沢山の児童を見ていて、忙しそうにしていますが、そんな中でも細かくフォローや指導をして下さり、また連絡もすぐしてくれるので安心してます。職員の皆さんには感謝しております。」「今いる職員の皆さん、いつもお迎えに行くと笑顔で挨拶してくれて、まっすぐに話してくれたり、相談した際もとても親身に話を聞いてくれて嬉しかったし、話し易い雰囲気を皆さん持っていると思っています。」「一生やめたくないです。楽しいです。」という感謝の声が寄せられていました。そのほか、他施設との交流が増えると良いと思う、玩具や遊びが充実すると嬉しい、こどもの気持ちに寄り添って声掛けや対応してくれると安心するという意見が寄せられていました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	63	9	2	2
この項目では「はい」の回答が82.9%、「どちらともいえない」は11.9%、「いいえ」が2.6%、「無回答・非該当」は2.6%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「好きなスポーツが出来ます。」「おもちゃなどの備品が充実していて、とても楽しく遊ぶことが出来ます。」「めんこ遊びが楽しいです。」というコメントがありました。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	54	12	2	8
この項目では「はい」の回答が71.1%、「どちらともいえない」は15.8%、「いいえ」が2.6%、「無回答・非該当」は10.5%という結果となりました。自由記述では「あまり聞くことがない。」というコメントのほか、全職員統一した対応だと嬉しいという意見が寄せられていました。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	65	7	1	3
この項目では「はい」の回答が85.6%、「どちらともいえない」は9.2%、「いいえ」が1.3%、「無回答・非該当」は3.9%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「『楽しすぎて美味しい』との事です。」「友達と一緒におやつを食べる時間が楽しいです。」「足りないくらいです。」というコメントがありました。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	26	24	4	22
この項目では「はい」の回答が34.2%、「どちらともいえない」は31.6%、「いいえ」が5.3%、「無回答・非該当」は28.9%という結果となりました。自由記述では「あまり自分の意見を言わない。」「話しに行ったことがないので分からない。」「というコメントのほか、話し合う場があると良いという意見が寄せられていました。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	62	6	3	5
この項目では「はい」の回答が81.6%、「どちらともいえない」は7.9%、「いいえ」が3.9%、「無回答・非該当」は6.6%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「例えば学童クラブから寄り道をせずに家に帰る約束の大切さを伝えてくれました。」「というコメントがありました。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	31	26	13	6
この項目では「はい」の回答が40.8%、「どちらともいえない」は34.2%、「いいえ」が17.1%、「無回答・非該当」は7.9%という結果となりました。自由記述では、こどもが使用した後は片付いていないことが多いので、進んで片づけられる状況になると良いという意見が寄せられていました。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	62	8	1	5
この項目では「はい」の回答が81.6%、「どちらともいえない」は10.5%、「いいえ」が1.3%、「無回答・非該当」は6.6%という結果となり、高い評価を得ています。この項目のコメントはありませんでした。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	63	4	1	8
この項目では「はい」の回答が82.9%、「どちらともいえない」は5.3%、「いいえ」が1.3%、「無回答・非該当」は10.5%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「けがした時に手当てをして、家族に書面などで連絡してくれます。」「経験がないです。」「というコメントのほか、全職員統一した対応だと安心するという意見が寄せられていました。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	62	5	3	6
この項目では「はい」の回答が81.6%、「どちらともいえない」は6.6%、「いいえ」が3.9%、「無回答・非該当」は7.9%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「困った時も助けてくれています。」「子ども同士の意見を聞いて解決出来るように導いてくれます。」「というコメントのほか、寄り添って対応してくれると嬉しいという意見が寄せられていました。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	60	9	4	3
この項目では「はい」の回答が78.9%、「どちらともいえない」は11.9%、「いいえ」が5.3%、「無回答・非該当」は3.9%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「子ども同士の意見を聞いて解決出来るように導いてくれます。」「気持ちや意見を聞いてくれます。」「というコメントのほか、全職員統一した対応だと良いと思うという意見が寄せられていました。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	50	11	1	14
この項目では「はい」の回答が65.8%、「どちらともいえない」は14.5%、「いいえ」が1.3%、「無回答・非該当」は18.4%という結果となりました。自由記述では「秘密はない。」というコメントのほか、全職員統一した対応をして欲しいという意見が寄せられていました。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	54	9	1	12
この項目では「はい」の回答が71.1%、「どちらともいえない」は11.9%、「いいえ」が1.3%、「無回答・非該当」は15.7%という結果となりました。自由記述では「困ったことが無いそうです。」というコメントのほか、気持ちに寄り添って対応してくれると安心するという意見が寄せられていました。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	28	12	5	31
この項目では「はい」の回答が36.8%、「どちらともいえない」は15.8%、「いいえ」が6.6%、「無回答・非該当」は40.8%という結果となりました。自由記述では「学校では聞いていた。」というコメントがありました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリー1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
	評点(〇〇)		
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当	
	カテゴリー1の講評		
事業所の大切にしている想いや目標は職員や利用者に提示し、理解を深めています 事業所が大切にしている想いや目標について、職員には毎朝の「始業時ミーティング」で確認するとともに、前日の振り返りや保護者対応などを共有し、日々の運営に反映させています。さらに月に一度のロングミーティングでは、今月の振り返りと翌月の目標設定、課題の整理をおこない、事業所全体の運営を確認合っています。保護者に対しては、入会説明会や施設見学の際に理念や基本方針について説明をおこなうほか、「学童クラブだより」や「新BOPだより」を通じて情報を発信しています。 経営層は理念実現のため職員の役割を明確にし、文章の配布や掲示で周知しています 経営層は事業所の理念やビジョンを実現するために、職員に対して明確な役割と責任を伝えることを重視しており、これを月1回のロングミーティングを通じて全職員に共有しています。また、職務や役割分担については事務室内で掲示し、職員全員が常に確認できるようにしています。さらに、各職員へ職務や役割に関する文書を配布し、周知を徹底しています。年度始めや月1回のミーティングでは職員間での情報交換をおこない、年度末には目標が達成できたかを検証する会議も設定しています。 重要案件は審議後に職員へ周知し利用者にはおたよりやメールで決定内容を伝えています 重要な案件の決定手順や情報伝達については、所管課での審議を経て、事務局長会や館長会で協議、検討された後に決定しています。決定内容は、始業時ミーティングやロングミーティングの場で職員に周知するほか、掲示や回覧、文書の配布をおこない、透明性を確保しています。また、利用者には、新BOPだよりや学童クラブだより、さらには放課後児童システムメールなどの媒体を通じて、決定事項の内容とその経緯を伝えています。職員が欠席していた場合には、事務局長から直接伝達し、議事録の確認を促すことで、全員が同じ情報を共有しています。			

2	カテゴリー2		
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
	サブカテゴリー1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			6／6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		
	評点(○○○○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当	
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当	
サブカテゴリー2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
		3／5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			
評点(○●●)			
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当	
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当	
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			
評点(○○)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当	
カテゴリー2の講評			
ニーズに対応するためさまざまな方法で課題を抽出し対応を協議しています 事業所では運営の改善や福祉ニーズに対応するために、さまざまな方法で課題を抽出しています。利用者からは、保護者会や個別面談、運営協議会、日常の送迎時の対話を通じて意向を把握しています。職員の意見や要望は、始業時のミーティングやロングミーティングで共有するほか、年度末には振り返りシートや反省会を通して把握しています。地域や行政からの福祉ニーズについては、事務局長会や児童館館長、新BOP事務局長等の四者会議で情報交換し、事務局長や関係課の報告を通じて福祉事業全体の動向を把握しています。 予算編成は所轄課がおこない、館長会、局長会で共有しています 予算編成は所轄課がおこない、館長会、局長会で共有しています。事業所では施設長が備品の購入など決められた予算内で計画的に運用しています。 職員の進捗確認や評価を定期的におこない、次年度の計画に反映させる仕組みがあります 計画推進の体制として、職員の役割や活動内容を明確にし、職員へのヒアリングや定期的なミーティング時に、服務役割シートや年間計画シート、振り返りシートを活用して進捗状況の確認をおこなっています。また、年度末には評価や反省をおこない、複数回にわたる振り返り会議を実施しています。これにより、計画の見直しをおこない、次年度の計画策定に反映させる仕組みを確立しています。このようにして、柔軟に計画を修正しながら目標達成を目指しています。			

カテゴリー3		
3	経営における社会的責任	
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 2／2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○ 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4／4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5／5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当
カテゴリー3の講評			
定期的な研修とミーティングを実施し法令遵守と虐待防止体制を強化しています 学童クラブに関する情報は、世田谷区公式ホームページで発信をおこなっています。利用希望者は、ホームページにアクセスし、知りたい情報を得ることができます。また、小学校のこどもが放課後の遊び場として利用できる、放課後子供教室「BOP」との違いが分かるように説明しています。就学前のこどもや保護者には、小学校の就学前健診の際に「新BOP学童クラブ児童募集案内」を配布するなど、学童クラブの情報発信に取り組んでいます。そのほか、新BOPの入会についての案内用紙を、児童館や近隣の保育園に配布をおこない情報を提供しています。 公式ホームページでは、新BOP学童クラブに関する情報を分かりやすく記載しています 世田谷区公式ホームページでは、「新BOP学童クラブ児童募集案内、学童クラブについての説明、入会受付期間や申請方法、新BOP学童クラブの概要説明、対象児童についての入会要件、申請方法」などの情報を詳細に載せ、利用希望者に分かりやすく説明しています。また、配慮を要するこどもの受入れについても記載し、こどもの特性に合わせた受け入れ体制が整っていることを発信しています。そのほか、世田谷区の児童課とは、学童クラブの現状や要望などの情報交換を必要に応じておこなっています。 地域への情報開示と交流により、連携を強化し地域全体でこども達を支えています 地域社会への情報開示として、学童クラブだよりや新BOPだよりを配布し、児童館にも設置しているほか、随時見学をおこない透明性を高めています。また、ボランティアや実習生、小・中学生の見学・体験も受け入れ、地域との連携を強化しています。さらに、地域の福祉ニーズに応じて高齢者と児童の交流会を開催し、昔あそびを通じて世代間の絆を育んでいます。地域の関係機関とも連携し、子ども家庭支援センター主催の会議や小学校の協議会に参加し、地域全体で子育てを支える仕組みを構築しています。			

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		12／12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		3／3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
職員の状況を踏まえた配置や、風通しの良い風土作りで働きやすい環境を整えています 採用活動は所管課が担当し、プレイングパートナーについては事務局長が面接をおこない、職員の希望や家庭状況を踏まえた配置をおこなっています。区の福利係によるストレス調査や風通しの良い環境づくりに努め、職員が意見を言いやすいように配慮しています。また、日頃から積極的にコミュニケーションを取り、ミーティングではお互いを認め合う機会を設け、イベント担当を工夫しながら職員同士の協力体制の強化に努めています。また、意見を否定せずにチャレンジを奨励し、失敗も成長の糧とする文化を育んでいます。 区が計画する必須研修と職員の求める研修を合わせて全体のスキル向上を図っています 雇用承諾書にもとづき、職務内容を明確にし、面接時や入所時に職員へ説明しています。職員の意向や経験にもとづいた個別の研修計画を策定し、年度内に個別面談を実施して意向を反映しています。また、区が実施するキャリアアップ研修や各種必修研修、初任者研修や中堅研修に参加し、全体のスキル向上を図っています。指導者に対しても、事務局長が日々の会話を通じてアドバイスをおこない、事前に指導内容の打ち合わせをおこなうことで、方針を統一し、より良い指導ができる体制を整えています。 研修内容や日ごろの気づきはミーティングで共有しサービスの質向上に取り組んでいます 職員が受講した研修後には、必ず学んだ内容をミーティングで発表し、研修報告書を提出して全員で共有しています。また、日常業務での気づきや工夫をミーティングで意見交換し、サービスの質向上や業務改善に活かす仕組みを整えています。さらに、年度末には反省会議を開催し、出された課題について分科会形式で協議をおこない、その成果を次年度の運営に活かすことで、チームでの活動が効果的に進むよう努めています。このように、職員の学びや意見を共有し、組織全体で目標達成に向けた協力体制を築いています。		

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
	サブカテゴリー1(7-1)
	事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている
	評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)
	前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 児童たちが遊びを通して多様な交流や体験ができるよう、児童の声を反映させることを目標に、環境の充実を図る取り組みを進めています。この課題を設定した背景には、職員だけの反省をもとに年間目標を立てると、運営がマンネリ化する可能性があることがありました。そのため、こどもたちの意見をできる限り聴き、その意見を職員全体で協議・検討することで、より児童中心の運営を目指す必要があると判断しています。この目標達成のために、施設内に「子どもの声ポスト」を設置し、児童たちから「行事や活動の希望」や「あそびのルールの見直し」などの意見を募っています。半年間にわたって意見を集約し、それをもとに2024年度の新BOP運営に反映する取り組みを実施しています。取り組みの結果、学童クラブやBOPに登録している多くの児童たちから意見が寄せられ、その意見を2024年度の目標設定や日常の運営に活用しています。この結果を振り返り、今後も「子どもの声ポスト」を継続的に設置し、児童の意見を継続的に聴き取り、児童の想いを尊重し、より良い学童環境を提供することを目指します。
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
	評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 学童クラブが実施した改善活動は、現場の声を適切に取り入れ、柔軟に運営を改善しようとする姿勢が評価できます。「子どもの声ポスト」を設置し、児童たちからの意見を直接集めた取り組みは、こども中心の運営を実現するための有効な手段です。単に大人の視点からの改善ではなく、サービスの対象者であるこどもたちのニーズや要望を反映することで、より効果的な学童運営を可能にしています。組織運営において、サービス利用者の意見を反映させる仕組みを導入することは、組織の柔軟性を高めるだけでなく、サービスの質を向上に繋がっています。特に学童クラブのような現場では、児童たちの意見を取り入れることで、より自発的な活動や成長を促す場を提供することができ、保護者や地域社会との信頼関係の強化にも寄与します。これにより、常に新しい意見や発想を取り入れることで、柔軟な運営体制を確立しています。今後も職員と児童が一丸となり、より良い学童クラブ運営のための組織的な取り組みに期待します。

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 2023年度の課題から「学校や地域、保護者と連携し、児童一人ひとりの社会性、自立性、創造性を養う」という目標を設定しました。この課題は、地域社会と密接な関わりを持ちながら、こどもたちが多様な大人と触れ合い、社会的スキルを育む必要性にもとづいています。具体的な取り組みとして、児童館や高齢者施設、社会福祉協議会と連携し、百人一首やお手玉などの昔遊びを通じて異世代交流を促進しています。また、4年生以上のこどもたちが定期的に児童館を訪問する機会を設けるなど、児童館との相互交流も強化しています。地域の高齢者との防災訓練の共催や民間学童クラブとの夏祭り、ドッジボール大会といったイベントも実施し、こどもたちが地域の方々と触れ合う機会を提供しています。これにより、こどもたちは多様な人々との交流を通じて社会性を育み、地域社会との関係性が強化しています。今後もこのような地域交流を継続し、さらなる社会性の育成を目指して取り組みを進めていく予定です。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 事業所がおこなった取り組みは、地域との連携を強化し、児童の社会性や自立性を養うための効果的なものとして評価します。特に、児童館や高齢者施設、社会福祉協議会と連携し、異世代交流や地域との結びつきを深める機会を提供した点は、一方向の活動にとどまらず、地域全体でこどもを育む体制を構築しています。このような多世代・多機関との連携は、学童クラブの運営が地域社会の一部として機能し、保護者や地域住民からの信頼を強化する重要な戦略です。また、児童の社会性や創造性を育てるために、百人一首やお手玉といった昔遊びを取り入れたことは、文化の継承に留まらず、異なる世代間でのコミュニケーションを促進し、社会性の発達に大きな役割を果たしています。さらに、4年生以降の児童が自主的に児童館を訪れる機会を設け、相互交流を進めた点も、児童の自主性を育てるだけでなく、彼らが社会の一員として他者と協調し、責任感を持つ成長を支える重要な取り組みです。今後も、地域社会との連携強化による学童クラブの発展に期待します。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4／4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○ 非該当	
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
学童クラブの情報は、ホームページや新BOP学童クラブ児童募集案内で発信しています 学童クラブに関する情報は、世田谷区公式ホームページで発信をおこなっています。利用希望者は、ホームページにアクセスし、知りたい情報を得ることができます。また、小学校の児童が放課後の遊び場として利用できる、放課後子供教室「BOP」との違いが分かるように説明しています。就学前の子どもや保護者には、小学校の就学前健診の際に、「新BOP学童クラブ児童募集案内」を配布するなど、学童クラブの情報発信に取り組んでいます。そのほか、新BOPの入会についての案内用紙を、児童館や近隣の保育園に配布をおこない情報を提供しています。 公式ホームページでは、新BOP学童クラブに関する情報を分かりやすく記載しています 世田谷区公式ホームページでは、「新BOP学童クラブ児童募集案内、学童クラブについての説明、入会受付期間や申請方法、新BOP学童クラブの概要説明、対象児童についての入会要件、申請方法」などの情報を詳細に載せ、利用希望者に分かりやすく説明しています。また、配慮を要する子どもの受け入れについても記載し、子どもの特性に合わせた受け入れ体制が整っていることを発信しています。そのほか、世田谷区の児童課とは、学童クラブの現状や要望などの情報交換を必要に応じておこなっています。 見学の際は、学童クラブの過ごし方や運営形態、保護者との連携について説明しています 学童クラブの見学は、新BOP運営時間内であれば随時、電話や直接の来所でも受け付けしています。また、就学前健診に来た保護者や子どもに見学ができることを伝えています。見学の案内は、事務局長、児童指導員が対応し、クラブの一日の流れや、玩具、おやつについて説明しています。見学者には、在籍数が多い大規模新BOPであるために2箇所での運営形態と、保護者とは密に連携を図り協力して子どもの成長を見守っていきたいということを伝えています。また、配慮が必要とする子どもの受け入れ環境についての相談もおこなっています。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	8 / 8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
サブカテゴリー2の講評			
入会後は、学童クラブの利用に関して、保護者に説明をおこない、理解を得ています 学童クラブに新規入会する際は、BOP学童クラブのしおりに沿って保護者に説明をおこない、放課後児童システムの利用方法や連絡ファイルについても説明をしています。また、個別の面談を実施し、入所前のこどもの情報を記録して児童台帳にまとめています。学童クラブの利用者負担金については、新BOP学童クラブ児童募集案内に記載し、保護者の理解を得ています。こどもの写真画像に関しては、保護者に同意の確認をおこない、同意が得られない場合には、職員全体に周知しています。写真撮影する際は全体を撮り、顔を写さないなどに留意しています。 こどもの個別事情や要望を記録し、入所後は安心して遊んで過ごせる環境を整えています こどもに関する個別事情や要望は、入会時に提出する入会申請書を確認しています。特別な配慮を必要とするこどもは「児童票」、アレルギー児は、「アレルギー調査票」と「学校生活管理指導表」などで把握しています。入会直後は、こどもの不安な気持ちに寄り添い、一人ひとりに声かけをし、ともだちや好きな遊びを通して集団に入れるよう促しています。また、新1年生は、段階に分け生活や遊びの説明をし、少しずつ慣れていけるよう働きかけをしています。さらに、好きな遊びやキャラクターなどを事前に確認し、安心して遊んで過ごせる配慮に努めています。 特別な配慮が必要なこどもの支援整備や、退会後もゆるやかな支援の配慮をしています 学童クラブでは、特別な配慮が必要なこどもの入所前の生活状況を意識し、職員配置、必要性のある物の提供、環境構成についてなど支援の整備に取り組んでいます。また、入会前の面談をおこない、保護者の要望や思いを把握し、職員間で共有を図り、こどもの特性に合った環境作りに努めています。4年生で退会する保護者には、BOP登録の声かけをおこない、4年生の夏休み期間中は、弁当持参で過ごせる自立に向けた「ゆるやかな支援」について説明をし、保護者の不安軽減に取り組んでいます。こどもには、いつでも来所できることを伝えています。			

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
年間の育成支援計画は、全職員で立案し、こどもの姿を捉え、見直しに取り組んでいます 学童クラブでは、年間の育成支援計画を年度末に事務局長、児童指導員の全職員で討議し、立案しています。また、学校の年間計画も考慮し、段階的な計画に取り組んでいます。支援計画を見直す際は、毎月のロングミーティングであがった議題やこどもの現状の姿を捉えて作成、見直しに取り組んでいます。また、保護者には学童クラブの育成支援について、保護者会やお知らせを通し発信をおこない、個別の面談などでも支援計画の説明をし、理解が得られるように取り組んでいます。 こどもに関する状況や支援内容について、各ミーティングで話し合い記録しています こどもに関する情報は、ファイルを設置し、職員がいつでも確認できるようにしています。毎日のショートミーティングでは、こどもの遊びの様子やおやつの状況などを伝達し、次回に向けての申し送り事項などを詳細に記録しています。また、月1回実施するロングミーティングでは、月の振り返り、翌月のねらい、気になるこどもの支援対応などを話し合い、記録しています。特別な配慮を必要とするこどもには、児童票の記載内容の把握や、日々の様子を職員間で話し合い、支援内容や配慮事項を個人ノートや、全体を把握する配慮ノートに記録しています。 こどもの状況や変化に関してミーティングで周知を図り、全職員での共有に努めています 育成に関する計画や、各ミーティングでの記録を、事務室内に設置、全職員に周知し、共有を図っています。また、特別な配慮を必要とするこどもの個人ノートを定めた場所に設置し、共有しています。毎日のショートミーティングでは、児童や保護者の状況変化に関して、申し送りをし、共有に努めています。また、学童クラブ運営方針でこどもに関する決定事項や改定などは、ミーティングを通じ、全職員で把握に取り組んでいます。そのほか、配慮が必要なこどもに関しての研修や、専門機関による巡回での助言を、職員間で話し合い、理解を深めています。		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			5 / 5
	評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○ 非該当
	評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
学童クラブでは、こどもの個人情報の保護や、羞恥心に配慮した対応をおこなっています こどもの情報を外部とやり取りする際は、保護者に同意を得たうえで、情報提供をしています。また、特別な配慮を必要とするこどもには児童票の提出をもらい、関係機関とのやり取りなどについて同意を得ています。そのほか、こどもの写真に関しての承諾を得るために、メールで保護者に使用する目的を伝えています。こどもの個人情報に関しては、個人情報マニュアルを活用して外部への情報漏洩の徹底を図っています。こどもの羞恥心に配慮して、排泄の失敗時には同性介助をおこない、トイレ内や事務室内で着替えるなどの配慮をおこなっています。 職員は、こども一人ひとりを尊重した関わりに努め、信頼関係の構築に取り組んでいます 学童クラブでは、こども一人ひとりからの話を受け止め尊重し、嬉しいことや困りごとにも気軽に話せる信頼関係の構築に取り組んでいます。また、こども同士の関わりであっても、言葉遣いや態度など、人と人との関わりとして不適切なものに関しては、指導をおこない、学童クラブの生活が気持ちよく過ごせる支援に取り組んでいます。保護者とは、個人面談を通して、家庭における生活習慣や価値観などを把握し、こどもの家庭状況を理解したうえでの支援をおこない、保護者と協力して育成支援に取り組んでいます。 指導職員は、学童クラブ内で発生するこども同士の問題解決に向かって取り組んでいます 学童クラブの指導職員は、こどもの言葉の使い方や、相手に対して乱暴な態度が見られ仲介に入る際は、公平な立場でこどもの思いや意見を聞いています。こども同士が納得できない場合は、双方の保護者にも事情を説明し、和解を促しています。また、言葉に関しては、相手と話す際の言葉選びをこども自身が意識できる働きかけをおこなっています。さらに、学校内での問題と重なり大きな事態になる際は、学校とも情報共有を図り、問題解決に向かって取り組んでいます。職員は、こどもの不適切な行為を学童クラブ全体問題と意識し、改善に取り組んでいます。			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			5 / 5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		
	評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当 ●あり ○なし 2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当 ●あり ○なし 3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当		
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		
	評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当 ●あり ○なし 2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ○非該当		
	サブカテゴリー6の講評		
	各マニュアルは、手順を明確にし、整備をおこない、いつでも確認することができます 新BOP全体のマニュアルは、世田谷区で作成し、業務手順を明確にするとともに、整備しています。また、学童クラブに関するマニュアルは、児童館長の確認のうえ、職員間で共有を図っています。新BOP運営基準を始めとする各マニュアルは、事務室内の書庫に設置し、業務に関して分からないことが起きた際、職員のだれもが、いつでも確認することができます。また、マニュアルが更新された際は、職員に周知を図り共有しています。事故や災害に関する業務で緊急を要するマニュアルは、必要に応じて紙面で配布し、職員間での周知に取り組んでいます。 提供しているサービスの基本事項の見直しに取り組み、一定の水準化を目指しています 学童クラブで用いている業務上のきまりやルール事項などは、こどもの様子も考慮し、年度末に見直しをおこなっています。また、職員間で検討したうえで、状況に合わせ改善をおこなっています。提供しているサービスの見直しをする際は、こどもと保護者の意見や意向を反映し、その時の事業内容やこどもの様子、学童クラブ内の実態を捉えて見直しをおこなっています。新しく入職した職員には、公務員倫理に沿ったオリエンテーションを実施し、こどもや保護者に対する接遇や言葉の使い方について指導をおこない、業務に関する一定の水準化を目指しています。 保護者や職員からの意見を取り入れ、改善に取り組み、サービスの向上を目指しています 学童クラブでは、利用している保護者からの要望により、デリバリー弁当事業の実施をおこなっています。また、職員からの意見は、日々の業務運営のなかで見直しをおこない、改善に取り組んでいます。職員からの意見では、おやつ時の座って食べる向きなど、安全性が確保された環境の改善に取り組んでいます。また、学童クラブの職員は、定期的な移動があることを考慮し、さまざまなキャリアを持つ職員が配置になっても、円滑な運営ができるよう、透明性を高めた運営や事業のマニュアル化を図り、さらなるサービスの向上を目指しています。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
評価項目1の講評	
職員は、こどもとの関係性を築きながら、一人ひとりに合わせた援助に取り組んでいます 職員は、入会申請書類や児童票の内容を把握し、保護者から直接、情報を聞きとり、こどもと職員の関係性を築きながら、一人ひとりに合わせた援助に取り組んでいます。また、異年齢交流ができる新BOPの強みを活かし、こども同士が互いを認め、関係性を築けるよう働きかけています。高学年はリーダーシップが発揮できるチーム分けや、役割作りなど、楽しく主体的に遊びがおこなえる援助をしています。職員は、日常的に遊びや生活の様子を観察をおこない、こどもの困った様子がある際は、必要に応じた言葉かけや、状況に合った支援に取り組んでいます。 こども同士のトラブルには適切な仲介を心がけ、互いの成長の糧となる援助をしています 発達の過程で生じるこども同士のトラブルには、状況や意見を聞き取り、時には、意見の対立があることを伝え、互いの成長の糧となる援助をしています。また、クールダウンスペースを使い、気持ちが落ち着き、心が和らぐように寄り添っていく援助にも取り組んでいます。そのほか、トラブルが原因で暴力的な行為をすることもや、落ち着きがないこどもがいる場面では、気持ちが切り替わるような声かけをおこない、ほかのこどもには、安全の確保やこども同士の気持ちを代弁するなど、互いを認め、思いやりの気持ちが持てる声かけをおこなっています。 職員は特別な配慮を必要とするこどもの特性を理解し、生活しやすい環境を整えています 職員は、特別な配慮を必要とするこどもが、ほかのこどもと生活するうえで抱えるハードルの把握に努めています。また、各ミーティングで話し合い理解を深め、個人記録と個人ノートを活用して共有を図り、可能な範囲での声かけに努めています。職員は、こどもに対して、特別な配慮を必要とするこどもの特性を説明するなど、ともに生活するうえでの合理的配慮に努めています。学童クラブでは、特別な配慮が必要とするこどもも、ほかのこどもも同じ場所で過ごしていくために関係機関や専門機関へ相談し、助言を活かしながら対応の検討に取り組んでいます。	
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している	評点(〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している
評価項目2の講評	
「こどもポスト」を設置し、全てのこどもが平等に意見が発言できる環境を整えています 学童クラブでは、こどもの自主性や自発性を尊重するために、遊びのなかで、こどもの発言を大切に、アイデアを活かせるような環境作りをおこなっています。2023年度から「こどもポスト」を設置し、どのこどもでも平等に意見が発言できる環境を整えています。職員は、こどもの思いを尊重し、自発的なアイデアを取り入れながら、安全面でのルールを確保し、アイデアの実現に向けています。また、こどもの主体的な遊びの幅が、発達段階に合わせて広がる環境作りに取り組んでいます。さらに、静と動の動きのバランスにも配慮した環境を整えています。 こどもが主体的に集団活動に参加できるようルールを明確にし、参加を働きかけています 職員は、こどもが主体的に集団活動に参加できるよう、どのこどもにも声をかけ、参加を働きかけています。また、自らの想いを人に伝えるのが難しいこどもに対しては、職員が仲介役となる援助をおこなっています。さらに、集団で遊ぶうえでの、ルール決りを明確にし、こども同士が納得してから遊びを始められるように指導しています。職員は、活動のなかで新たな遊びを始める時や、新しく入ったこども、または集団生活が苦手なこどもが参加するタイミングなど、すべてのこどもが集団活動の輪に主体的に参加できる援助に取り組んでいます。 職員は、基本的な生活習慣が習得できる環境を整え、自発性を促す声かけをしています こどもに基本的な生活習慣が習得できるように、学童クラブは、集団生活の場であることを伝え、こども自身が意識できるよう、声かけをおこなっています。また、手洗いやうがいの大切さ、行動の意味を伝えるなど、基本的な生活の援助に取り組んでいます。トイレや手洗い場には、トイレを使う際のマナーやルール、手洗いの徹底を図るイラストを掲示し、衛生面での基本的な生活習慣が身につく環境を整えています。そのほか、自分の身の回りのことが、自発的にできるようにタイミングを見て、繰り返し声をかけるなどの援助に取り組んでいます。	

3	評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当
評価項目3の講評			
行事では、さまざまなことに興味、関心を持つきっかけとなる工夫をおこなっています 学童クラブでは、季節の行事や、日々の遊びのなかで実施される行事、外部の方を招いての行事など、それぞれの行事が持ち味を引き出して、こどもが、さまざまなことに興味、関心を持つきっかけとなる工夫をおこなっています。発達段階が違う低学年でも達成感を味わい、高学年は、こだわりを持てる行事内容を設定しています。また、制作に関する行事前であれば見本の提示をし、運動行事前は、行事に関する運動を遊び時間に取り入れるなど、進んで取り組めるよう環境を整えています。また、こどもが参加しやすい行事にするなど柔軟に対応しています。 行事の活動では、こども同士が意見を交わしながら活動できるように取り組んでいます 行事の活動では、「子どもスタッフ」の係を設けるなど、こども同士の意見を交わしながら活動できるように取り組んでいます。また、運動の行事では職員が見守るなか審判の係をおこなうなど、こどもにも役割分担をし、行事が楽しめる機会を設けています。職員は、普段の会話などからのこどもの「やりたい」を拾い上げ、行事としての企画を立案しています。また、日頃、こどもが積極的に楽しんでいる遊びや運動の姿が見られた際は、遊びの内容に沿った行事を企画するなど、こどもの遊びの様子を重視した行事の企画をおこなっています。 職員は、こどもへ行事の協力依頼などを通し、意欲が高められるよう関わっています 職員は、行事に関する事前のお知らせや、ポスターなどの製作をこどもに協力依頼をし、行事への意欲が高められるよう関わっています。また、事前準備など、こどもが手伝える機会も設け、職員と協力しながら行事を楽しめるようにしています。保護者には、こどもの行事への頑張っている様子などを、面談やお迎えの際に伝え共有を図っています。職員は、こどもが保護者や周囲の大人から頑張りを認められ、達成感が味わうように支援しています。そのほか、保護者には、夏まつりの物品に関しての協力依頼など、ともに行事に参加できるようにしています。			
4	評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている 評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	☐ 非該当	
評価項目4の講評			
職員は、こどもが自ら進んで学童クラブに通えるよう、個別対応に取り組んでいます 職員は、こどもが来所した際は、来てくれたことの嬉しさが伝わる声かけや雰囲気作りに取り組み、自ら進んで学童クラブに通えるようにしています。また、「放課後児童システム」を用いて出欠席の把握に努め、欠席が続くこどもに対しては、学校の様子を確認し、下校する際は、直接声をかけ、好きな遊びに誘うなどの個別対応に取り組んでいます。保護者とは、相互理解を図るため、個人面談を設け、関係性を築きこどもの支援について話し合っています。そのほか、運営場所の2箇所にて正規職員を配置し、いつでも相談しやすい環境作りに努めています。 学童クラブでの活動の流れが分かるよう伝え、見通しが立てられるようにしています 学童クラブのこどもには、勉強時間やおやつ時間を設定し、活動の流れが分かるように伝えています。また、ホワイトボードに校庭や体育館の使用状況を掲示し、遊びの選択ができるようにしています。学校の長期休業期間は、一日の活動に静と動の時間を設け、生活にメリハリをつけるなどの工夫をおこない、室内には、タイムスケジュールを掲示し、こどもが先の見通しを立て、次の行動が主体的にできる支援をしています。そのほか、児童館に行く際は、安全面に配慮し、交通ルールやマナーなどをこどもに伝え、安全性を確保しています。 職員は、安心して遊べる環境の工夫に取り組み、新BOPとしての環境を整えています 職員は、こどもが安心して、遊べる環境の工夫に取り組んでいます。また、こどもの遊びに合わせ、室内環境や時間配分など、柔軟な対応と設定に取り組んでいます。広い場所を使う遊びには、活動内容に合う場所の確保や、身体を使う遊びの際には、こども同士の接触や巻き込みなどの事故や怪我防止のために、職員間で情報共有を図り、注意を払っています。また、放課後子供教室と一体型の実施をおこなっている学童クラブとBOPでは、共に過ごすことができるよう、遊ぶ場所を区別することなく「新BOP」として同じ空間で過ごす環境を整えています。			

5	評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	☐ 非該当
評価項目5の講評			
新BOP・小学校との情報共有会議を毎月実施し、情報を共有し連携体制を整えています 学童クラブでは、校長、副校長、事務局長、児童指導が出席する「新BOP・小学校との情報共有会議」を毎月実施し、互いの情報を共有し、連携体制を整えています。また、こどもの担任教諭とも随時、情報を共有し、こどもが学童クラブでの生活が楽しく過ごせる支援に取り組んでいます。また、小学校建物内に学童クラブが併設され、こどもの移動については、安全を確保しています。小学校及び学童クラブで非常事態が発生した際は、迅速に内線電話にて情報を共有し、対応に取り組んでいます。 学童クラブは、小学校との連携を密に図り、こどもに対する支援体制を整えています 学童クラブのこどもが、学校で困難を抱えている場合には、学校側から情報を提供してもらい、学童クラブでこどもが過ごしやすい環境作りに取り組んでいます。また、保護者には学校との連携体制について説明をおこない、安心感につなげています。配慮すべき事由を学校から聞き取り、職員間での共有を図り、支援体制を整えています。職員は、公開授業や行事に参加し、こどもの様子を確認するなど小学校での過ごし方の把握に努めています。そのほか、保護者の同意を得て、小学校の担任との面談を通し、こどもの支援内容について話し合っています。 学童クラブでは支援が必要とするこどもや保護者に対し、関係機関と連携を図っています 特別な配慮を必要とするこどもについては、保護者や学校と連携を図るほか、支援が必要とするこどもに関する関係機関との連携にも取り組んでいます。学童クラブでは、各関係機関始め、子ども家庭支援センターや児童課と情報のやり取りをする際は、窓口となる常勤の職員を定め、こどもの個人情報に留意し、伝達の一本化を図っています。また、養育が難しい保護者に対しては、世田谷区の健康づくり課と情報共有を図り、こどもとともに支援する体制を整えています。			
6	評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	☐ 非該当
評価項目6の講評			
学童クラブで食べるおやつの時間が楽しくなるよう、温かい雰囲気作りを心がけています おやつの時間は、所定の場所で時間を分け提供をおこない、落ち着いて食べられる環境作りに取り組んでいます。おやつは世田谷区が管理し、学童クラブに提供する仕組みになっており、職員はおやつの組み合わせを調整し、こどもが楽しく食べるための工夫をおこなっています。また、生活の場であることを考慮し、「食への姿勢」について声をかけ、食事マナーの指導にも取り組んでいます。職員は、こどもがおやつの時間を楽しめるような、温かい雰囲気作りを心がけ、おやつメニューの組み合わせにも、飽きがこない配慮をおこなっています。 職員は、こどもの帰る時間を考慮して、おやつを提供する時間の調整をおこなっています 学童クラブでは、こどもの帰る時間を考慮して、おやつの食べる時間を分け、調整をおこなっています。また、おやつのメニューについてこどものリクエストを集め、人気のあるおやつを選択するなどの提供に取り組んでいます。おやつ量に関しても、こどもの様子を見ながら調整をおこなっています。土曜に来所する際は、保護者が準備したおやつを持参しています。アレルギー対応のこどもには、おやつを名前入りのトレイで提供し、ほかのこどもと区別し、安全面に配慮しています。そのほか、おやつの準備は職員がおこない、衛生管理に努めています。 アレルギー児への提供の際は、安心して食べられる安全面の配慮に取り組んでいます 入会の時にはアレルギー調査をし、状況に応じた提供をおこなっています。提供の際は、職員によるダブルチェックをおこない、事故防止の体制を整えています。また、お弁当時も、食べる空間を分け、アレルゲン混入がないよう環境を整えています。「新BOPにおける食物アレルギー児童対応の手引き」「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」の手引きを活用して非常時に備えています。そのほか、研修として「アレルギー児童対応研修」の実施をおこない、アドレナリン自己注射の使用方法やアレルギー症状について学んでいます。			

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当
評価項目7の講評			
職員は病気や怪我予防のための対策に取り組み、こどもにも理解できるよう伝えていきます 職員は、こどもの怪我防止のため、校庭や体育館で遊ぶ際は、遊具などの安全点検をおこなっています。また、安全面に配慮し、遊びの制限をする際は、こどもが理解できるように分かりやすく伝えていきます。事故や怪我が生じた際は、対応に熟知した職員複数人で適切な対応をおこない、怪我の状況が重度と判断した際は、迅速に医療機関につなげています。そのほか、感染症対策のため、換気の徹底や、机や玩具などこどもが触れる箇所の清掃や消毒をおこない、予防に努めています。こどもには、手洗いの大切さを伝え、継続した声かけをおこなっています。 医療的ケアが必要なこどもの対応について、専門医療機関からの留意点を共有しています 学童クラブでは、アレルギー疾患の症状があるこどもの保護者を通じ、専門医療機関からの留意点を共有しています。また、児童課の看護師と事例を用いながら適切な対応方法の確認をおこなっています。医療的ケアが必要なこどもには、可能な限りの支援をおこなうとともに、通常の学童クラブ運営に支障をきたさないよう、児童課の看護師とも密に連携を図り、学童クラブとしての対応方法の協議に取り組んでいます。そのほか、医療的ケアが必要なこどもに関する医療機関との連携体制や、受け入れの実施について協議、検討に取り組んでいます。			
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目8の講評		
職員は保護者の事情に合わせた対応をおこない、こどもの成長した様子を共有しています 学童クラブでは、保護者の家庭の事情や就労状況に応じて、帰宅時間の調整を柔軟に対応しています。また、こどもに対する声かけなどは、保護者の事情に合わせ配慮しながらおこなっています。保護者同士が交流できるように、児童館の行事などでの企画を検討しています。保護者会では、こどもの様子をスライドを活用して、成長した姿や学童クラブでの取り組みを伝えるなど、保護者との共有に取り組んでいます。そのほか、放課後児童システムを通じたメールや、新BOPだより・学童クラブだよりを配布し、情報発信に取り組んでいます。 保護者が相談できる体制を整え、共通認識を深めこどもの育成支援に取り組んでいます 学童クラブでは、各部屋に職員を配置し、保護者が相談しやすい環境を整え、信頼関係の構築に取り組んでいます。また、学童クラブだよりを活用し、こどもの様子を伝え、個人面談では職員と情報共有をおこない、共通認識を深め育成支援に取り組んでいます。そのほか、お迎えの時には、こどもに関する話題の共有に努めています。学童クラブからの伝達がある際は電話や急きょ個人面談をおこない、各家庭の状況に応じた対応をおこなっています。さらに、学童クラブ運営の基本方針にもとづいてこどもの自立を支援し、保護者と相談しながら取り組んでいます。 こどもの安全の確保のために、学童クラブへの出欠管理を徹底して取り組んでいます 学童クラブのこどもが、出席予定で来所していない場合には、保護者に連絡をおこない、連絡がとれない場合には、学校への確認や、通学路を搜索するなど、学童クラブへの出欠管理を徹底して取り組んでいます。また、放課後児童システムの入力期限を過ぎて連絡の無い場合には、電話での確認もおこなっています。学童クラブの出欠席に関しては、こどもの安全や生命に関わる問題に発展することを考慮して、職員間で協力し、安全確保の徹底に取り組んでいます。			

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	☒ あり ☐ なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
地域資源を活用し、こどもがさまざまな体験を通して、交流が持てる機会を設けています 学童クラブのこどもが、さまざまな体験や交流が図れるように、児童館や民設民営学童クラブ、外部ボランティア団体と協力し、交流する機会を設けています。新BOPとして開催したお祭りでは、同じ小学校のこどもを育成している、民設民営学童クラブと交流を図り、親交を深める活動をおこなっています。また、今冬にも交流が持てる行事を企画しています。「おてだまであそぼう」「お話し会」のボランティア団体とは、毎月のイベントとして実施しています。そのほか、自立支援の取り組みとして、3年生対象に、児童館に行くイベントも実施しています。 こどもには、さまざまな地域の方と交流が持てる機会を提供し、生活の幅を広げています 学童クラブでは、地域の方や外部ボランティア団体と呼び「おてだま・百人一首であそぼう」を企画し、実施しています。こどもは、普段接することが少ない高齢者との関わりを通し、お手玉の技を学びながら世代間交流を図っています。また、外部ボランティア団体の方とは、毎月のイベントを通じて、いつもとは違う雰囲気の中で、親しみを持って交流を図っています。そのほか、夏休み期間に、併設中学校1年生のボランティアを受け入れ、校庭や体育館、BOP室などでの遊びを通し交流を図るなど、さまざまな地域の方と交流が持てる機会を設けています。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル①	学童クラブでは、全てのこどもが、遊びや生活の時間を共有できる実現に注力しています	
内容①	放課後の遊び場としてのBOPと、育成を目的とした学童クラブが共に過ごすなかで、互いの遊びや生活の質を平等に保障する運営の推進をおこなっています。職員は、学童クラブとBOPのこどもを分けず、同じ遊びを提供し、一体感を大切にすることを心がけています。また、職員間の情報共有や関係機関との連携を図り、こどもの十分な見守りにも取り組んでいます。学童クラブでは、大人数のこどもが在籍するなかで、全てのこどもが同じ空間で、遊びや生活の時間を共有し、安心して過ごせる新しい形の「新BOP」を目指し、その実現に注力しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル②	全てのこどもの個性や特性を受け入れ、快適に過ごせる運営体制に取り組んでいます	
内容②	学童クラブでは、特別な配慮が必要なこどもが年々増加している状況を受け、保護者との密な連携を図り、来所時の過ごし方や使用する玩具について職員間でシミュレーションをおこない、こどもが快適に過ごせる運営体制の確認に取り組んでいます。また、入所前からこどもの特性に合わせた環境を検討し、こどもと保護者が安心して通所できる環境を整えています。さらに、学校との連携の強化を図り、生活の連続性にも配慮しています。学童クラブでは、全てのこどもの個性や特性を受け入れ、インクルーシブを基本とした環境を整えることに注力しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる
タイトル③	事務局長が橋渡し役となり、関係機関との効果的な連携を実現しています	
内容③	事業所では、関係機関との情報共有に特に力を入れています。事務局長は、かつて児童館の館長や行政での経験を持ち、その経験を活かして関係機関との橋渡し役を担い、効果的な連携を実現しています。小学校や児童館との定期的な打ち合わせや情報共有を随時おこない、こどもたちを多方面から見守る体制を整えています。さらに、民設民営学童クラブとも定例会議や打ち合わせを通じて情報交換をおこない、連携を強化しています。これにより、こどもたちが安心して過ごせる環境を構築しています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	学童クラブの職員は、こどもの生活と遊び場となる運営の工夫に取り組み、イベントを活用した、こどもの主体的な活動につなげています
	内容	学童クラブ及びBOPは登録人数が多く、小学校建物内2箇所の部屋を活用して運営をおこなっています。職員は、互いに情報共有を密におこない、こどもの生活と遊び場となるよう、公平な運営の工夫に取り組んでいます。また、こどもが自由に2箇所の部屋を往来できるようにし、月に2回のイベントを開催するなど、学童クラブに通いたいと感じる雰囲気作りに努め、環境を整えています。さらに、運動や手作り工作などのイベントでは、主体的な活動につながるよう、こどもの意見を取り入れ、成功と失敗の学びが成長の糧となるよう働きかけ支援しています。
2	タイトル	学童クラブでは、職員間で共通の方向性を持ち、自由な発想を柔軟に取り入れ、学校、児童館と連携を図り、こどもの育成に取り組んでいます
	内容	学童クラブでは、職員全員が共通の方向性を持ち協働のもと運営をおこなっています。新しく運営の起案をする際は、環境や状況が異なる2箇所での運営を考慮し、各ミーティングでは、職員間で協議をおこない、実現に向かって取り組んでいます。また、事務局長を中心に、自由な発想を柔軟に取り入れ、より良いこどもの生活と遊びの場となる学童クラブの環境を整えています。さらに、学校とは、定期的に会議を設け密な連携を図り、ともにこどもの育成に取り組んでいます。そのほか、児童館とも連携を図り、外部との交流にも積極的に取り組んでいます。
3	タイトル	スペースを最大限に活用し、安全性を確保しながらこどもたちが健やかに過ごせるよう遊びや場所を工夫しています
	内容	大規模な事業所であるにもかかわらず、単に遊ぶ場所を増やすだけではなく、現在使用できる場所を最大限に活用し、こどもたちが健やかに過ごせるよう工夫しています。特に、ケガのリスクを減らすため、使用できるスペースを有効に活用し、メンコ遊びなど遊びをグループ化することで、職員の目が行き届くよう安全性を確保しながら、こどもたちが安心して遊べる環境を整えています。また、職員数が少ない中でも、会計年度任用職員と協力し、こどもの安全と安心に繋げています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	学童クラブの職員は、運営内容に試行錯誤を重ね、学童クラブに適した形を模索し、目標の実現やニーズに応えた改善に取り組んでいます
	内容	2024年度より、民設民営の学童クラブが新たに設置され、新BOP学童クラブと連携しながらの運営に取り組んでいます。また、学童クラブを利用する保護者の多忙化を背景に、2023年の冬休みからデリバリー弁当事業などの新しい事業も展開しています。職員は、運営内容に試行錯誤を重ね、振り返りや確認をおこない、学童クラブに適した形を模索し、目標の実現に取り組んでいます。さらに、制度面の整備も進められるなか、保護者が本来に必要とするニーズに応え改善を図り、地域や家庭に根ざした学童クラブとしての、質の向上を目指しています。
2	タイトル	マニュアルの定期的な振り返りを通じ会計年度任用職員と職員のスキルの均一化を目指し育成環境の充実に期待します
	内容	複数の育成部屋を持つ芦花小新BOPでは、常勤職員に加えて、会計年度任用職員が多く在籍し業務のサポートをおこなっています。会計年度任用職員は入所時に研修を受け、現場に配属されますが、今後に向け定期的にマニュアルを振り返る場を設けるなど、スキルの均一化に向けて取り組む予定があります。「一日の育成」という限られた時間の中で、専門知識を持った職員が見守る必要があるこどもたちも在籍しているため、職員間での共通認識を深めるように努めています。今後さらなる育成環境の充実に期待します。
3	タイトル	多様化する保護者ニーズに対応できるよう努めるとともに、家庭と協力してこどもの成長を支える体制の展開に期待します
	内容	事業所では、学童だよりや新BOPだよりの配布に加え、放課後児童システムメールなどを通じて事業所の取り組みや年間計画を保護者に共有しています。年に3回おこなう保護者会では保護者の意向や要望を汲み取って、児童の個性に沿った支援を心がけています。今後に向けて包括的な支援をさらに強化し、保護者からのフィードバックを積極的におこなうなど、多様化する保護者ニーズにも対応できるよう努め、家庭と連携したこどもたちのサポート体制のさらなる展開に期待します。